

歌で、文法を教えますか？

姜豊子、森本陽子
グアム大学

要旨

本稿は、歌を使って初級文法習得の促進の試みを提案する。歌を使って初級文法習得の促進の試みた結果の報告も含めて。

この提案は、学習者の（短期）記憶力の効率性をできるだけ最良状態に保つことに重点を置く教授法（Memory Efficient Approach）に基づいている。歌（メロディー）は、学習者の長期記憶にあるもの（学習者が子供の時、第一言語で習得したもの等）を使用。歌詞に各初級クラスの文法—特に、不規則なもの、活用語尾（morphology）等—を導入して。

歌が学習者の（短期）記憶能力の効率性を上げることができるのではという主な理由を下記に簡単に記す。

（１）短期記憶の全能力が使えなければ、新しい構文解析処理（parsing）のやり方が習い難い。インプットセンテンスの中に未知の語彙があったり、曖昧な部分があると、短期記憶能力に負担がかかり、構文解析の処理が難しくなる。

（２）フォノロジーのフレーズが構文解析の処理単位である。歌詞の切れ目は、フォノロジーのフレーズイングと一致する。日本語の歌を教えるのは、日本語のフォノロジーのフレーズイングを学生が自然に習えると予測して。

歌の学習に、テクノロジーが最適。オーディオ（audio）ファイルとテキストファイルが同時に使用可能だから。また、学生が何度も自由に教室外で聞けるので。本稿では、テクノロジーとして、power point を使って、各々の歌のオーディオファイルとテキストファイルを作り、Moodle の中で起動させている。

1. はじめに

本稿は、歌を使って初級文法習得の促進の試みを提案する。歌を使って初級文法習得の促進の試みた結果の報告も含めて。

大学の初級学習者にとって、規則的な文法は比較的習得し易いが、不規則なものは、なかなか習得が難しいという問題がある。大学の初級クラスでも、基礎日本語Ⅱのクラスになると、構文構造が複文化し、活用語尾の習得が重要となって来る。が、短期間の活用の習得が難しいという問題がある。この問題の解決策として、歌の使用を始める。

（短期）記憶能力効率化をはかる教授法（Memory Efficient Approach ; Kang, 1993)においては未知のもの、すなわち、未知の単語や言い回しや活用語尾等を除去して、記憶能力効率化をはかることを重要視する。また、第二言語構文構造の解析能力（parsing competence)は、構文解析の処理単位であるフォノロジーのフレーズ、すなわち意味解釈の単位ごとの解析によって発達すると考える。歌

詞の切れ目は、フォノロジーのフレーズイングと一致する。日本語の歌を教えるのは、日本語のフォノロジーのフレーズイングを学生が自然に習えると予測して。歌の学習に、テクノロジーが最適と考える。オーディオ (audio) ファイルとテキストファイルが同時に使用可能だから。また、学生が何度も自由に教室外で聞けるので。本稿では、テクノロジーとして、power point を使って、各々の歌のオーディオファイルとテキストファイルを作り、Moodle の中で起動させている。

2. (短期) 記憶能力効率化教授法と歌の使用

この提案は、学習者の (短期) 記憶能力の効率性をできるだけ最良状態に保つことに重点を置く教授法に基づいている。歌 (メロディー) は、学習者の長期記憶にあるもの (学習者が子供の時、第一言語で習得したもの等) を使用。歌詞に各初級クラスの文法—特に、不規則なもの、活用語尾 (morphology) 等—を導入して。

歌が学習者の (短期) 記憶能力の効率性を上げることができるのではという主な理由を下記に簡単に記す。

(1) 短期記憶の全能力が使えなければ、新しい構文解析処理 (parsing) 方法を習い難い。インプットセンテンスの中に未知の語彙があったり、曖昧な部分があると、短期記憶能力に負担がかかり、構文解析の処理が難しくなる。ちなみに、構文解析処理方法は教えて習得できるものではない。この教授法では第二言語学習者が何を習得すべきなのかということ、第二言語の構文解析処理アルゴリズム (parsing algorithm) である。

(2) この記憶能力効率化教授法はフォノロジーのフレーズが意味解釈の単位 (comprehension unit; cf. “sense unit” in Selkirk, 1984) であり、構文解析の処理単位であると考えられる。歌詞の切れ目は、フォノロジーのフレーズイングと一致する。日本語の歌を教えるのは、日本語のフォノロジーのフレーズイングを学生が自然に習えると予測して。

(3) 歌では一般的にフレーズの繰り返しは自然である。従って、学習者を同じものの繰り返しだが、単調でいやなものとならず、覚え易いという利点があるのではないかとの考えから。

(4) 歌で言語ゲームも可能である。ゲームは学生の高い関心を期待でき、言語能力を楽しく競わせられ、学習動機を高められるのではないだろうかと考えるため。特に大学生の場合、子供と異なり、知的理解力が高いので、少しでも文脈が入れられる (歌の) 言語ゲームが好ましいと考える。

3. 歌の効果性調査

3. 1 調査 (1)

上記に述べたように、短期記憶の全能力が使えなければ、新しい構文解析処理 (parsing) 方法を習い難い。インプットセンテンスの中に未知の語彙があったり、曖昧な部分があると、短期記憶能力に負担がかかり、構文解析の処理が難

しくなる。未知の、未習得の用言の活用や、不規則助数詞 (counters)も 短期記憶能力に負担がける原因となる。そこで、歌詩を作り、採用。

そこで、基礎日本語 I (JA101) のクラスの形容詞と名詞の活用形の習得度を、歌を採用することによって、高い上達度が見られるかどうかを調べたく、行ったものである。メロディーは 非常にシンプルなラップ音楽 (rap music)のものをを用いた。これをゲーム化し、二クラスで、ペアで (学生 A ,学生 B) クラスで、練習させ、主語を学生 A が言い、もう一人の学生 B が、学生 A が使った形容詞または名詞のテンスと肯定／否定に関して反対の活用語尾を使って文を口頭で完了するというゲーム。

一例を下記に紹介する。

学生 A: 元気なお父さんが
 学生 B: 元気じゃなかった。
 学生 A: いい天気か
 学生 B: よくなかった。

ひとクラスをコントロールグループとして、歌を使ってのこのゲームを行わなかった。Moodle で テストを入力し、下記の結果が得られた。残念ながら、期待したほどの効果がみられなかった。

クラス	上達率
101-01	14.80%
101-02	17.30%
101-03	14.50%

図 1

ところが、ペーパーテストの結果に歌ゲームを使用した効果がみられた。そこで、どうしてなのかと、Moodle に入力したテスト問題と ペーパーテストの問題を比べてみた。それで、分かったことは、ペーパーテストでは、漢字をほとんど使っていなかったということ。Moodle に入力したテスト問題は、未知の漢字のため、正しい活用語尾が選べなかったものと推測する。ところで、テストの質問と選択解答はテキストファイルとして提示している。

しかしながら、ペーパーテストで、この形容詞活用形の歌ゲームの使用の有無だけでは歌の効果があっかどうか言い難い。何故なら、図 2 にあるように、形容詞活用形上達度が、歌を教えたクラス (JA101-01 と JA101-02) と使わなかったクラス (JA101-03) でそれほど高い差が出てこなかった故。この理由は多分 JA101-03 学生は、他の二クラスと比べて、日本語学習動機が高いからであろう。図 2-4 での pre-test の比べると、JA101-03 の習得度は 10%以下であるが、他の二クラスは 10%以上であるから。

そこで不規則助数詞の上達度と比べると次のことが明らかになった。不規則助数詞の歌はこの三クラス全部に教えた。この歌メロディーは “one little, two little, three little Indians...” で、歌詞は次の通りである。

しょうがつを
とおか、ここのか、ようか、まって、
なのか、むいか、いつか、まって、
ようか、みっか、ふつか、まって、
いちにち まちました。

101-01	形容詞活用上達度 (%)	助数詞 (一日、二日等) 上達度 (%)
Pre-test	17.78	17.78
Post-test	71.67	80.13
上達度の差	53.89	62.35

図 2

101-02	形容詞活用上達度 (%)	助数詞 (一日、二日等) 上達度 (%)
Pre-test	17.78	17.78
Post-test	71.67	80.13
上達度の差	53.89	62.35

図 3

101-03	形容詞活用上達度 (%)	助数詞 (一日、二日等) 上達度 (%)
Average: Pre-test	6.67	1.54
Average: Post-Test	58.67	76.15
上達度の差	52	74.61

図 4

JA101-01 と JA101-02 のクラスでは、図 2 に見られるように、形容詞活用語尾の上達度と不規則助数詞の上達度の差が 10% 以下に比べ、JA101-03 の形容詞活用語尾の上達度 (歌の無使用の場合) と不規則助数詞の上達度 (歌を使用の場合) の差が 20% 以上もある。JA101-03 の学生達は日本語学習動機が一番高く、歌の採用の習得促進の効果があったといえる。

クラス	形容詞活用上達度 (%)	助数詞 (一日、二日等) 上達度 (%)	上達度の差 (%)
JA101-01	60.02	65.91	5.89
JA101-02	53.89	62.35	8.46
JA101-03	52	74.61	22.61

図 5

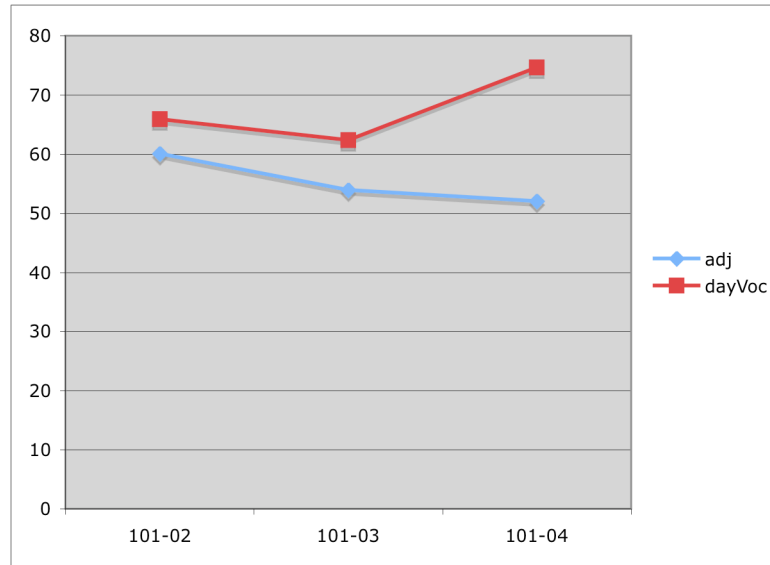


図 3

3. 2 調査 (2)

関係節の習得は一般に難しく、特に英語が母国語である学習者にとって。そのため、限られた時間内で、歌、歌ゲームの採用がどれだけの習得促進効果を生み出せるかを調べた。この教授法は英語を母国語とする学生が日本語を学習する時、母国語の、特に関係節を処理する時、構文解析処理のアルゴリズムを、トランスファーできなく、新たに習得しなければならないと予測しているため。

この調査は基礎日本語 II の学生の関係節の習得の促進を期待して、ふたつの歌、「メリーの好きな人」と「メリーの好きなもの」、を採用。ゲーム性を持たせるため、「謎々」形式の質問をテストに用いている。このふたつの歌のメロディーはどちらも“Mary had a little lam”である。

i) 「メリーの好きな人」

1. メリーさんの 好きな人、
知っている、知っている？
頭が よくて、やさしい人、
車を あらって (い) る人だよ。

ii) 「メリーの好きなもの」 (謎々)

1. メリーさんの 好きなもの
知っている、知っている？
楽器を 弾いて、作るもの
おどる時、いるもの。

(答え：音楽)

Pre-test 及び Post-test の質問はこの論文の一人の筆者が録音して、Moodle に入力している。選択する解答は 提示しているが。

(1) これは、外国の旅行に持って行くものです。これは自分のしゃしんが中にある小さい本です。何ですか。

- a. 小さいノート b. トラベラーチェック c. パスポート d. クレジットカード e. テレフォンカード

(2) ここは、料理を作って、出す所です。そして、作った料理をテーブルに持って来る所です。ここは、どこですか。

- a. きっさてん b. ゲームや c. マクドナルド d. ファーストフード e. レストラン

なぜ「謎々」を使った理由は正しい構文解析処理ができたかどうかを判断するのに「謎々」が最適と考えたため。「謎々」を聞き取り、正しく解答できれば、インプットされた文が正しく解釈されたとこの教授ほうが論じる故。

調査の結果は図4を参照。歌を教えた JA102-01 のクラスでは13%の上達度がみられたが、歌を教えなかった JA102-02 のクラスでは1%以下であった。従って、歌の関係節の習得促進の効果があつたことがうかがえる。

クラス	上達度
JA102-01	13%
JA102-02	0.10%

図4

4. おわりに

不規則な活用、助数詞を覚えるのは単調でつまらないと思う大学生が多く、学習意欲がわからないのだろうと感じている教師は我々だけではないと思う。歌を採用して、学習効果を出すには、ただ歌を紹介し、教えるだけでなく、それを練習した方が良くできるようなアクティビティを考え、そのアクティビティの成績がつくことを学生に知らせる方がより高い学習効果が出て来るのではと思う。

参考文献

- Kang, P. T. (1993) *Parser Strategies of Adult English Speakers learning Japanese as a Second language: Theory and Application*. Unpublished doctoral dissertation. University of Texas at Austin.
 Selkirk, E. O. (1984). *Phonology and Syntax: the Relation between Sound and Structure*. Cambridge: MIT Press.